
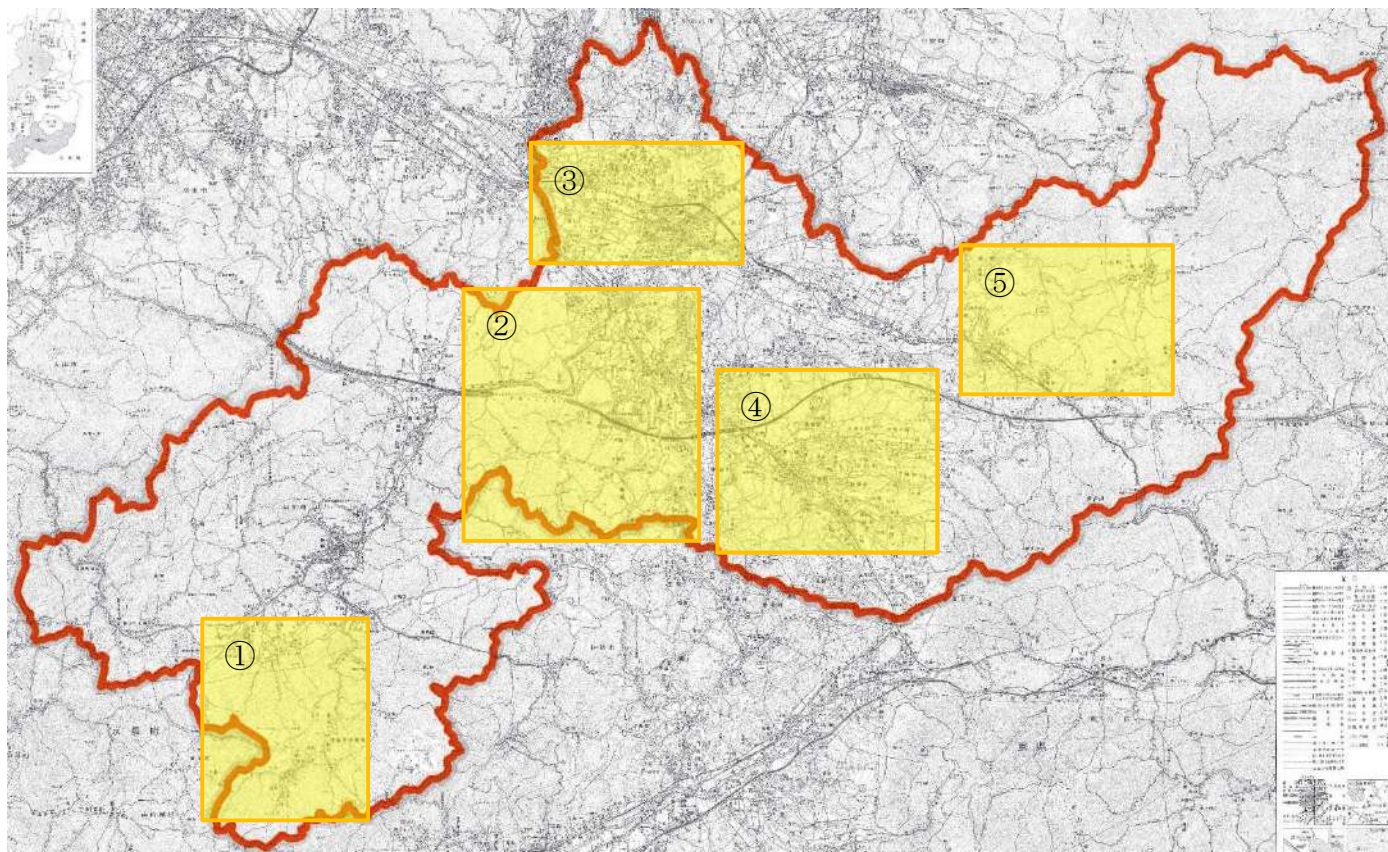


① 申請者	◎滋賀県甲賀市 三重県伊賀市	② タイプ	地域型 / <u>リアル型</u> A B C D E
③ タイトル			
忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>忍者は今やテレビやアニメを通じて海外にまで広く知れ渡り、奇抜なアクションで人々を魅了している。忍者の名は広く知られていても、真の姿を知る人は少ない。伊賀・甲賀は忍者の発祥地として知られ、その代表格とされてきた。</p> <p>複雑な地形を利用して数多くの城館を築き、互いに連携し自らの地を治め、地域の平和を守り抜いた集団であり、伊賀・甲賀流忍術は、豊かな宗教文化や多彩な生活の中から育まれた。忍びの里に残る数々の足跡を訪ねれば、リアルな忍者の姿が浮かび上がる。</p> <p>伊賀・甲賀、そこには、戦乱の時代を駆け抜けた忍者の伝統が今も息づいている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"><div data-bbox="276 965 593 1435" style="text-align: center;"><p>翔ぶ忍者</p></div><div data-bbox="700 992 1153 1359" style="text-align: center;"><p>伊賀・甲賀流忍術を集大成した秘伝書 ぼんせんしゅうかい 『萬川集海』</p></div></div>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名			
電 話		FAX	
E-mail			
住 所			

甲賀市全体図



- ① 信楽地区
- ②・③・④ 水口・甲賀・甲南地区
- ⑤ 土山地区

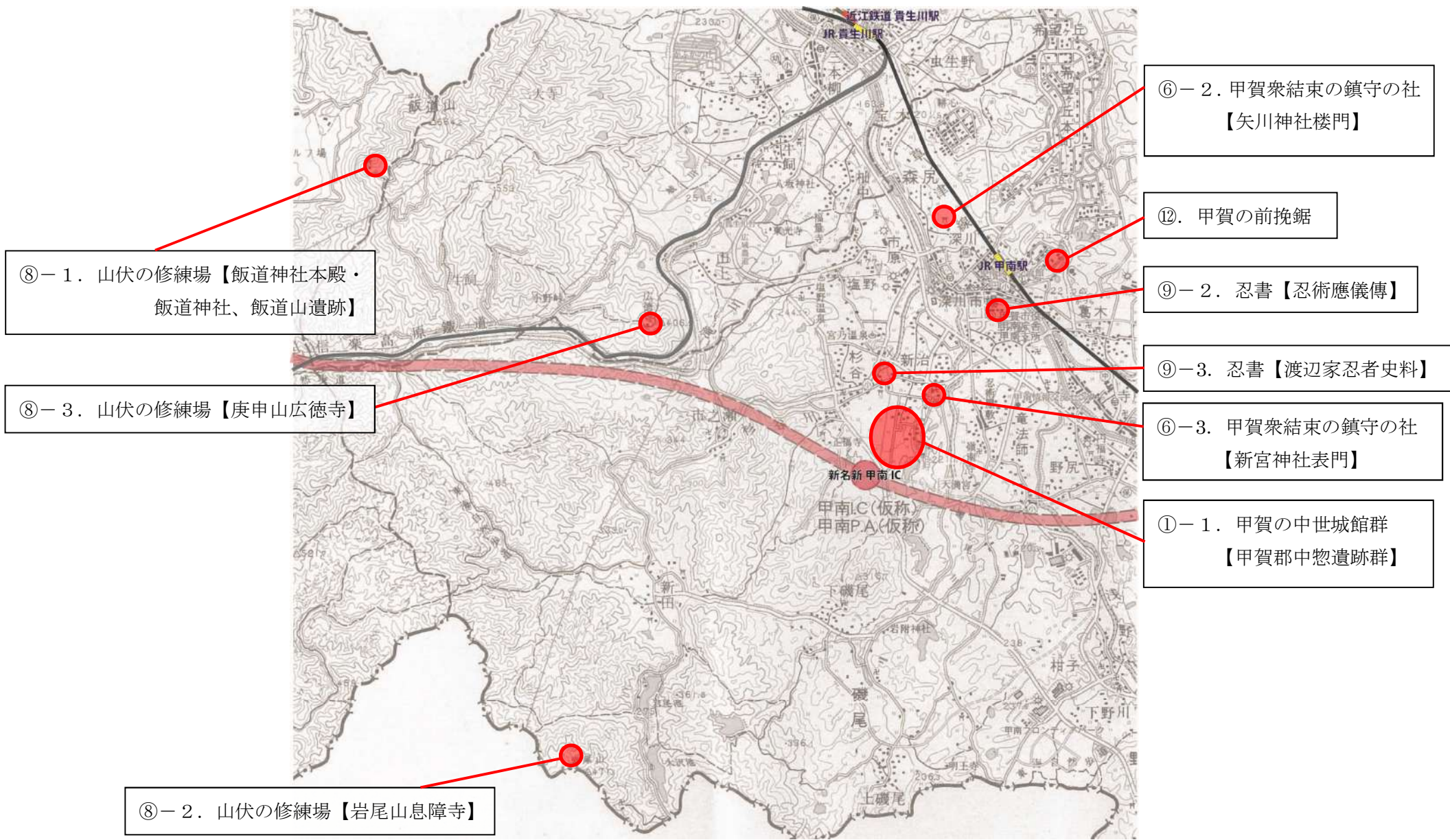
分布図① 【信楽地区】



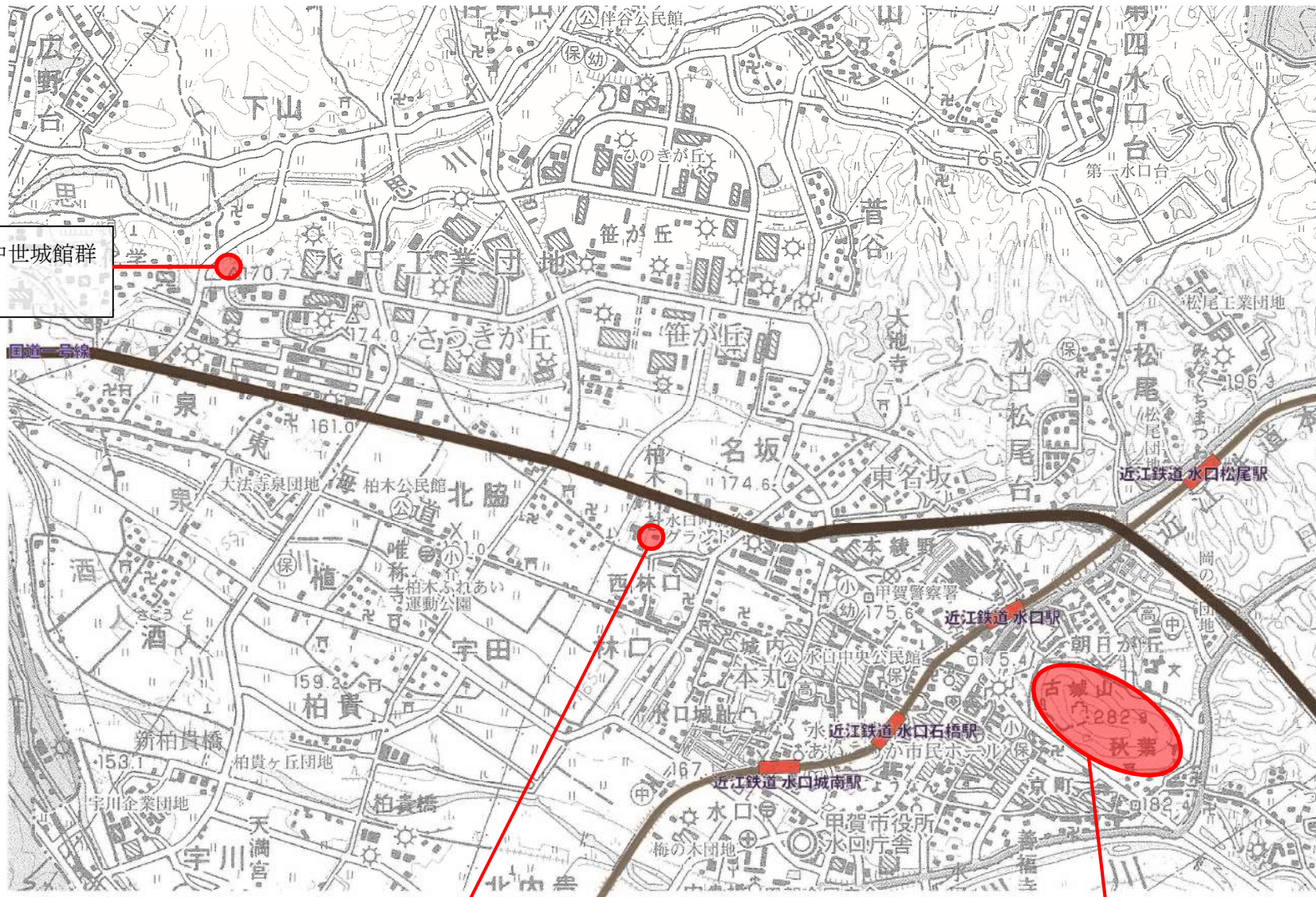
②-1. 神君伊賀越関連遺跡群
【小川城跡】

②-2. 神君伊賀越関連遺跡群
【多羅尾代官陣屋跡】

分布図②【甲南・水口・信楽地区】



分布図③ 【水口地区】

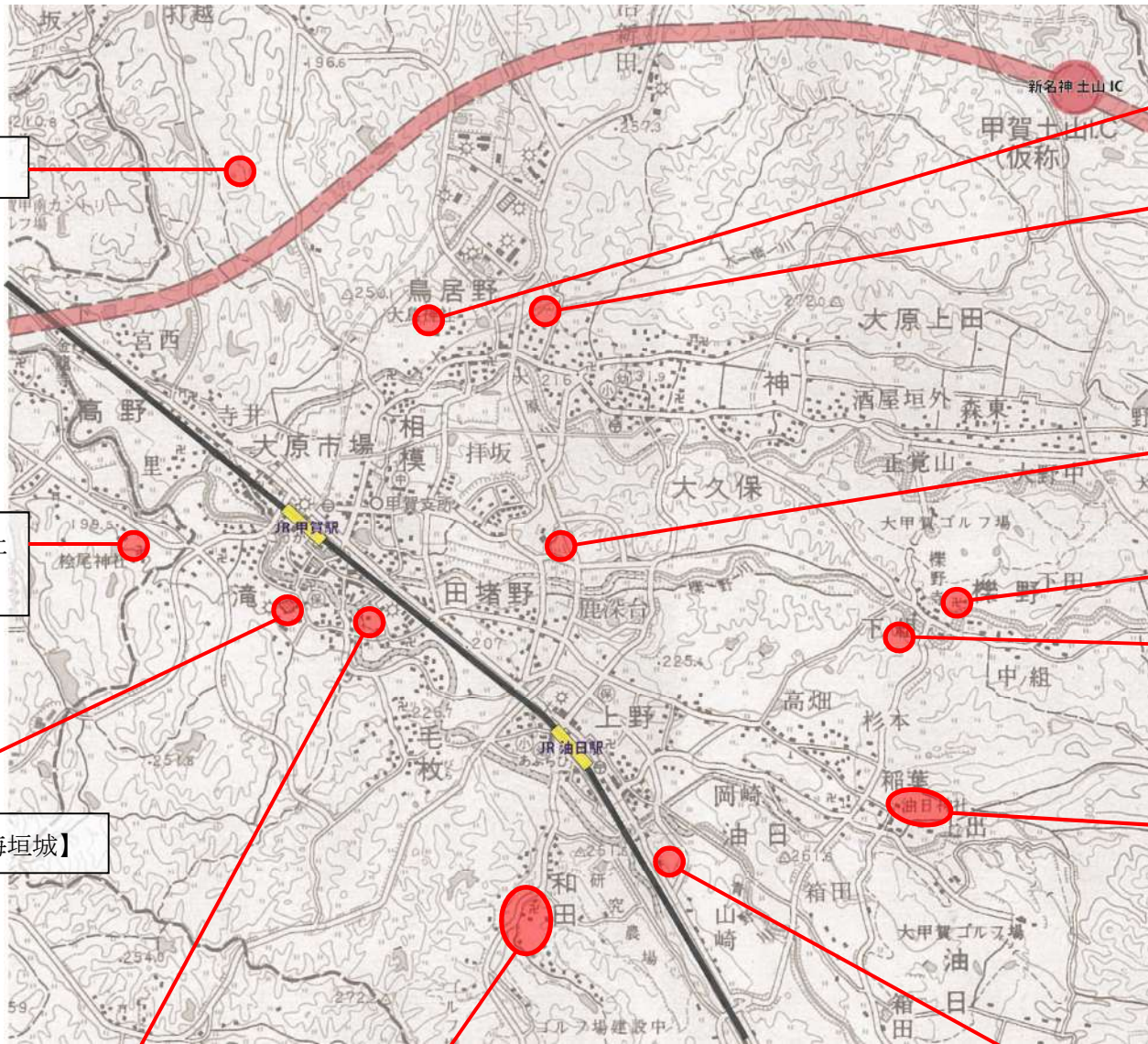


①-⑨. 甲賀の中世城館群
【下山城】

⑥-4. 甲賀衆結束の鎮守の社
【柏木神社】

③. 水口岡山城跡

分布図④ 【甲賀・甲南地区】



⑩. 甲賀忍術博物館建物群

⑥-5. 甲賀衆結束の鎮守の社
【檜尾神社本殿】

①-5. 甲賀の中世城館群【梅垣城】

⑨-1. 忍書【萬川集海】
①-10. 大原城

④. 和田公方屋敷跡
①-2. 甲賀の中世城館群【和田城】

①-6. 甲賀の中世城館群【上野城】

⑥-1. 甲賀衆結束の鎮守の社
【大鳥神社】

①-4. 甲賀の中世城館群【篠山城】

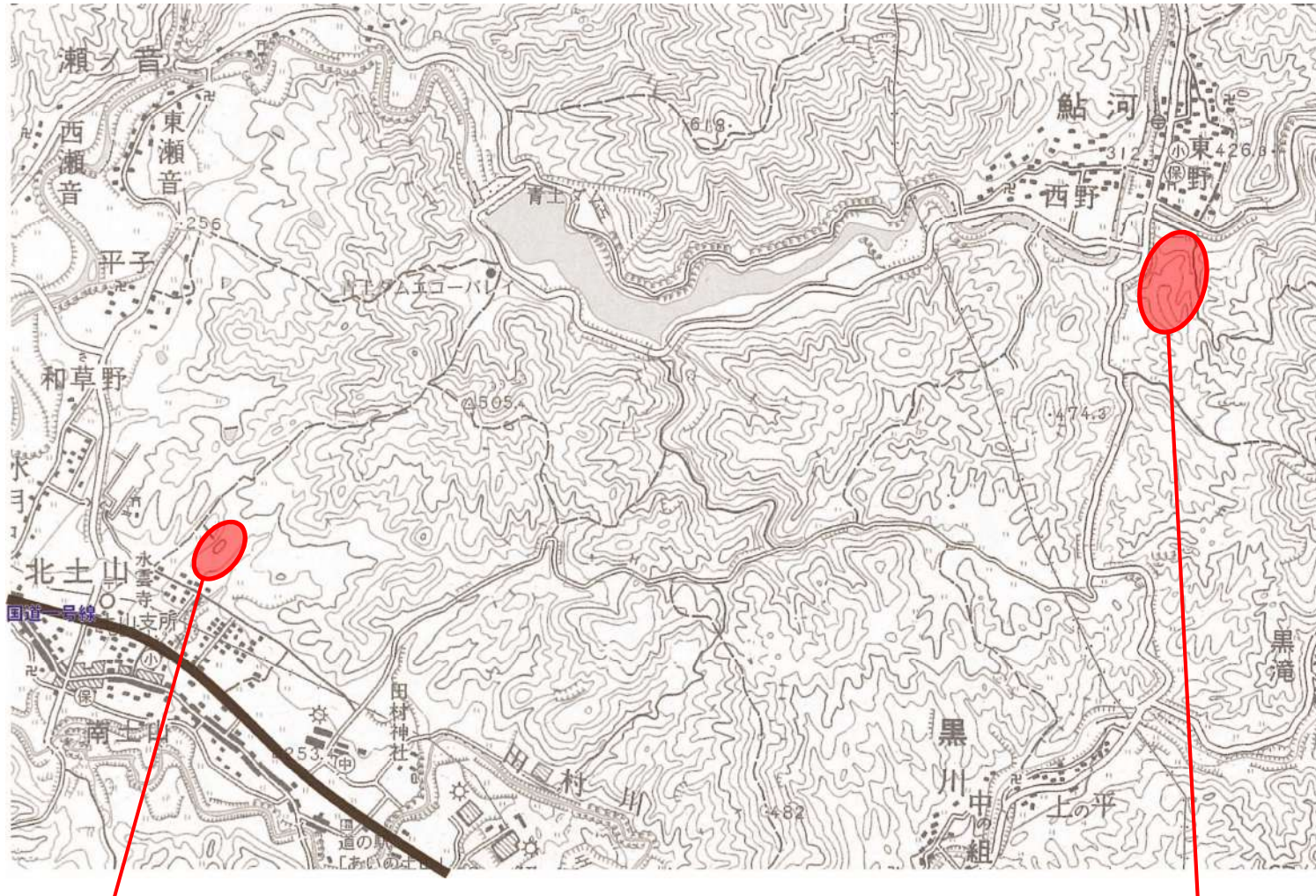
⑪. 甲賀のくすり関連資料

⑦. 櫛野寺

①-3. 甲賀の中世城館群【滝川城】

⑤ 油日神社の文化財群
1. 油日神社建造物
2. 油日の奴振
3. 油日神社懸仏群

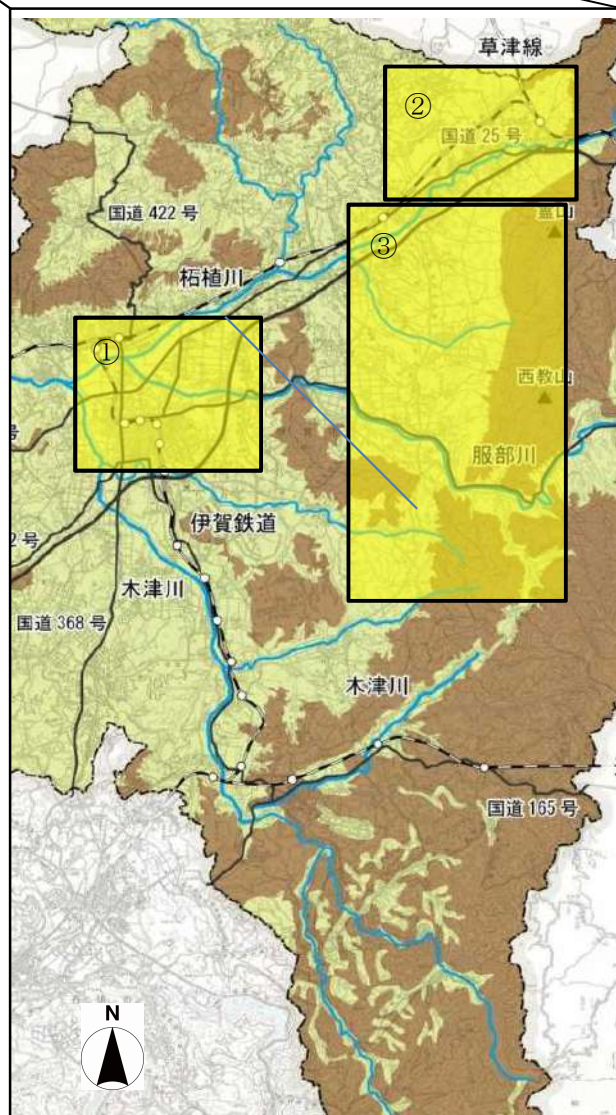
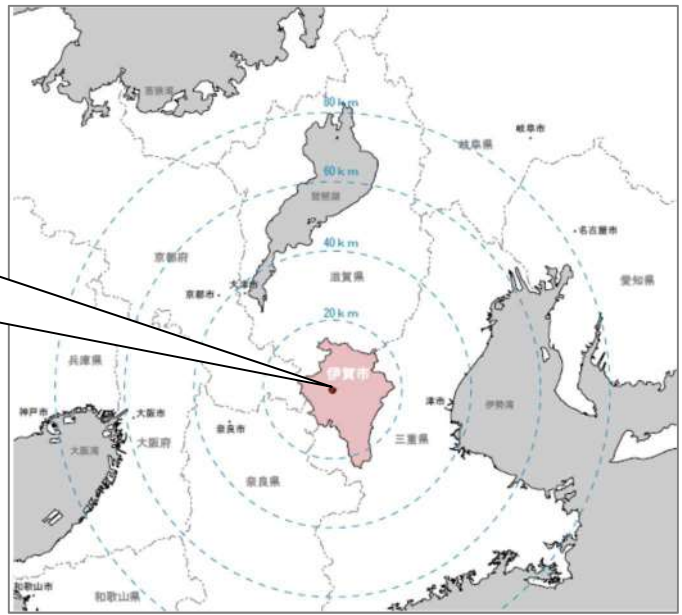
分布図⑤【土山地区】



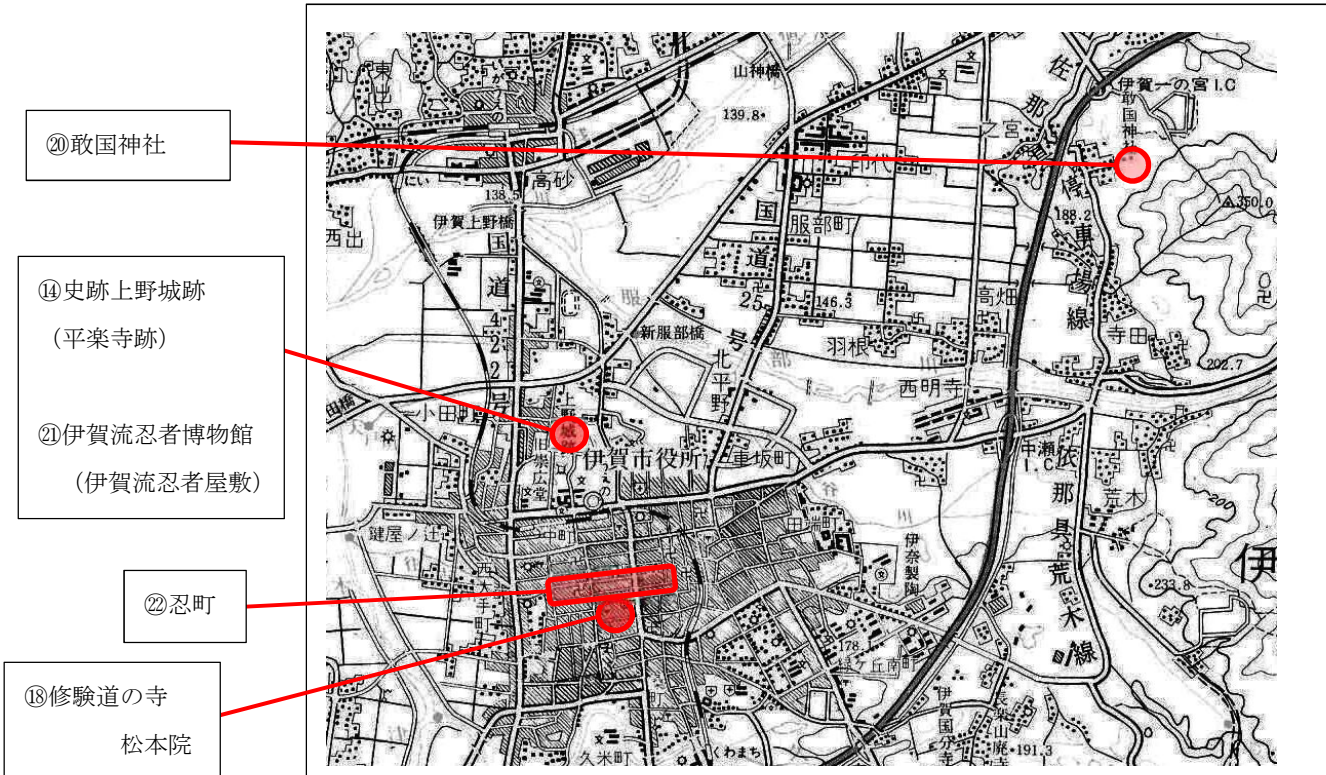
①-7. 甲賀の中世城館群【土山城】

①-8. 甲賀の中世城館群【黒川氏城】

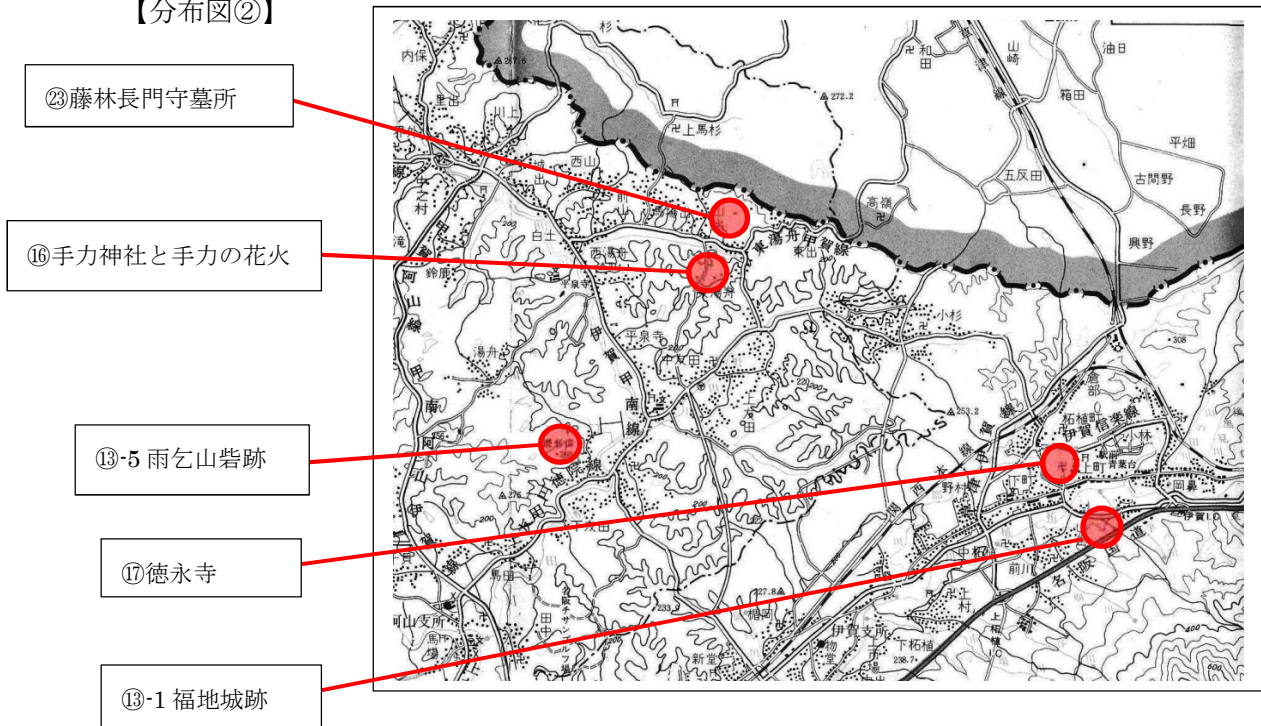
伊賀市全体図



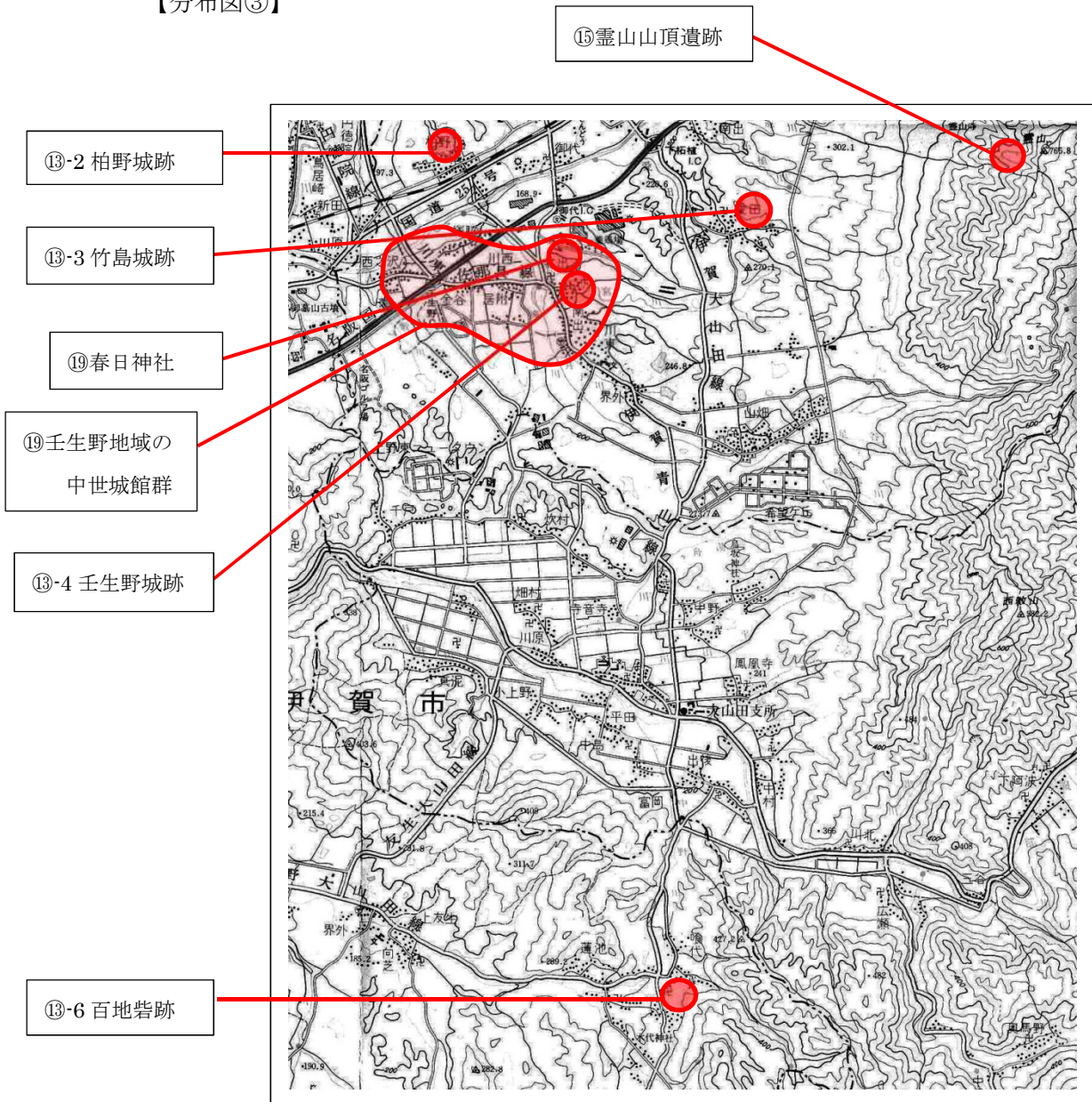
【分布図①】



【分布図②】



【分布図③】



ストーリー

1. リアルな忍者を求めて

忍者は今やテレビやアニメを通じて海外にまで広く知れ渡り、奇抜なアクションで人々を魅了している。江戸時代以降、歌舞伎や小説の世界で、不思議な術を使って悪者を討つというストーリーで人気を博してきた。一方、イエズス会が編纂した「日葡辞書」には、忍者は「Xinobi」(シノビ)として記載され、17世紀初頭には海外の人々にまで伝わっており、そこには「戦争の際に、状況を探るために、夜、または、こっそりと隠れて城内へよじ上ったり陣営内に入ったりする間諜」として紹介されている。

各地の大名に仕え、敵情を探り、奇襲戦にと戦国の影で活躍した忍者たち。忍者の名は広く知られていても、今日なお謎に満ちており、真の姿を知る人は少ない。今、求められているのは忍者の本当の姿、すなわち「リアル忍者」である。

2. 忍者発祥の地、伊賀、甲賀

三重県伊賀地方と滋賀県甲賀地方は忍者の発祥地として名高く、江戸時代の地誌「近江輿地志略」



忍者の里の複雑な地形

には「忍者(しのびのもの)伊賀甲賀と号し忍者という」とあり、忍者は「伊賀、甲賀の者」が代表格とされてきた。「甲伊一国」とも言われ、なだらかな丘陵を境に南北に隣り合い、今も交流が盛んである。京都や奈良などにも程近いことから情報が入りやすく、東に鈴鹿山脈、西に笠置山地に囲まれた山間の地は、時の権力者の恰好の亡命地であり、また大和街道や東海道が通る東西交通の要衝、そして軍事的にも重要な地域でもあった。伊賀、甲賀地方からどうして忍者や忍術が生まれたのか、その答えは忍びの里を訪ね歩くと自ずと見つけることができる。

3. 丘陵に囲まれた城館の宝庫

忍者の里を歩くと、奇妙な風景に包まれる。小高い丘陵に囲まれた風景が行けども行けども続き、迷路のような奥地に誘い込まれる。丘陵の裾野に張り付くように集落が点在し、家々は細かな谷に遮られて見えにく、隠れ里と呼ばれるのに相応しい。上空から見ると細かく枝分れしたような複雑な谷地形が広がっている。こうした独特の地形は今から300万年前の古琵琶湖層という粘土層が侵食されて出来上がった。見晴らしのよい丘陵の先端や谷の入口には必ずといっていいほど城跡があり、侵入者は谷の両側から攻撃を仕掛けられると、袋のねずみのように退路を遮れた。守りが堅く、攻め難い、これが忍者の里である。



土造りの城館

城といっても石垣はなく、土を盛り上げ一辺約50m程の土塁で四方を囲んだ館タイプの城館で、土塁の高さは優に5mを越え異様に高い。その数は伊賀、甲賀で800箇所にも及び、日本有数の城館密集地帯である。なぜこのような姿になったのか、それは忍者の組織に求めることができる。

4. 地域の平和を守った忍者たち

忍者の実像は「伊賀衆」「甲賀衆」と呼ばれた「地侍」たちだった。戦国時代、この地域からは大きな力を持った大名が現れず、自らの地を自らの力で治める必要から自治が発達し、お互いに連携をして地域を守っていた。地侍たちは一国、一郡規模で連合し合い、そうした自治組織を「伊賀惣国一揆」そして「甲賀郡中惣」と呼び、互いに同盟し合って仲が良かった。一族の結束は強く、「一味同心」に団結し、「諸事談合」して、時には多数決さえ用いて物事を決めており、「みんなで集まり、話し合いで決める」こと、これが忍者の里の「掟」だった。封建制が強まり、下克上の嵐が吹き荒れる戦国時代にあって、一人の領主による力の支配ではなく、皆で力を合わせて地域の平和を守ってきた姿は、テレビやアニメで描かれる非情な世界とはまったく異なる。



甲賀衆結束の場、油日神社

それが城館の分布に現れている。ここでは突出した権力がないため特別に大きな城はなく、また同種の地侍たちが集まっていたため、同じ形、同じ大きさの城館が狭い地域にひしめき合う世界が出現した。しかし天下統一を目指した織田信長や豊臣秀吉などの強大な権力の出現とともに、こうした地侍の自治組織も終焉を迎える。

一方、戦国時代を通じて忍びの技術は重宝され、各地の大名に仕え活躍していた。中でも天正10年(1582)の本能寺の変後、堺にいた徳川家康が本国三河に帰る最短ルートとしてこの地を駆け抜けた際、伊賀者、甲賀者が家康を護衛し、その活躍が今日まで「神君伊賀越え」として語り継がれている。

5. 多彩な生活文化を育んだ伊賀・甲賀

忍者の生活を見てみよう。彼らは平時は農耕に勤しんだ。伊賀の菊岡如幻きくおかじよげんによる「伊乱記」によれば「午前中は家業に精励し、午後には寺に集まって軍術、兵道の稽古をした」とある。いざ戦となれば村に鐘が鳴り響き、お百姓さんからお坊さんに至るまで、それぞれ得意の武器を持って立ち上がれと「掟」では定めており、村人たちが総動員で戦った。



山伏たちによる護摩修行

この地域には農業以外にも多彩な生業が芽生えた。奈良時代、東大寺建立に用材を供給した山である伊賀杣いげそう、甲賀杣こうげそうが開かれ、杣人(木こり)たちは大木を切り、木から木へと飛び移って木材を生産した。山には山岳宗教が栄え、山伏たちは山稜で厳しい修行を積む一方、薬草の知識を身に付け、全国各地にお札を配り薬を授けて廻っていた。自然豊かな山野で体を鍛え、諸国を巡り歩くことで情報に通じた。忍者の人並み外れた跳躍術や、走り方、隠れ方、薬の作り方、精神統一の法など、この地に生きる人々の日々の暮らしや、生業の知識、技術が忍者の技として活かされており、忍術は決して荒唐無稽な術ではなかった。

延宝4年(1676)に藤林保武ふじばやしやすたけが著した忍術秘伝書『萬川集海』にも、火薬や薬などの化学、山伏が育んだ呪術や天文学、様々な忍び込む術が集大成されているが、伊賀、甲賀が育んできた先進的な技術や宗教文化、そして人々の多彩な生活があったからこそ、そこに忍術が生まれたのである。

6. 今に残る忍者の面影

伊賀、甲賀を取り巻く山々に登ってみよう。そこは山岳仏教の霊地であり、今も苔むす石垣に囲まれた寺院跡が残る。伊賀の霊山には数多くの中世の石造物が佇み、近江屈指の修験霊場、甲賀の飯道山では今も山伏たちが唱える読経が響き渡る。巨岩、奇石が屹立した山伏の行場を巡ると、自然を相手に心身練磨をした忍者の修行を体験することができ、呪文と印を結ぶ山伏の姿や、もくもくと焚き上げる護摩の煙に、現代に生きるリアルな忍者が感じられる。

里に下りれば、平安時代の数々の仏像に天台密教が栄えた証を見ることができ、厳かな宗教文化に触れれば、忍者に感じる神秘性の背景が理解できるだろう。

村々の鎮守の社は忍者たちの合議の場であった。伊賀の春日神社あえくにや敢国神社は祭礼行事を通じて結束を固めた所で、その周辺に彼らの屋敷が点在している。甲賀の油日神社あぶらひに残る廻廊は寄合いの場で、境内で5年に一度、繰り広げられる華やかな奴振やつこぶりに、かつての侍衆が集まり氏神にお参りした名残を見ることができる。

里山に入ると土造りの城館が今もそのままの姿で残っており、戦国時代を彷彿させる緊迫した世界が現れる。集落の屋敷は四角く高い土塁で囲まれ、今なお忍者の子孫たちの暮らしがある。伊賀、甲賀の忍者が最も得意とした火薬や薬は、火術を得意とした伊賀藤林氏の氏神、手力神社で打ち上げる花火にその面影がみられ、甲賀では配置売薬に引き継がれ、薬の町として一大産業に発展しており、忍者の知恵が今日の暮らしに溶け込んでいる。

エンターテインメントの世界では人々の想像力を掻き立て、多くのスーパー忍者を生み出したが、戦国の世とは程遠い穏やかな風景のなかに、忍者が活躍した痕跡は確かに息づいている。

忍者発祥の地、伊賀、甲賀。忍びの里を訪ねれば忍者の真の姿が浮かび上がるだろう。



伊賀手力神社の花火

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	甲賀の中世城館群	国指定史跡 (1 甲賀郡中惣遺跡群) 市指定史跡 (2 和田城 3 滝川城 4 篠山城 5 梅垣城 6 上野城) 未指定 (7 土山城 8 黒川氏城 9 下山城 10 大原城)	戦国時代の甲賀は強大な大名がないため、特別におおきな城はなく、また地侍たちの性格もよく似ていたため、同じ大きさ同じ形の城がひしめきあっていた。地侍たちは互いに連携し、共同で地域を治めていた。 いずれも一辺 50m程の方形の土塁で囲まれ、空掘りを巡らせた土造りの城である。	滋賀県 甲賀市
②	神君伊賀越え 関連遺跡	県指定史跡 (1 小川城跡)	神君伊賀越えの際に、徳川家康一行が宿泊したと伝えられる多羅尾氏の居城。	滋賀県 甲賀市
		市指定史跡 (2 多羅尾 代官陣屋跡)	江戸時代を通じて代官を勤めていた多羅尾氏の役所跡で、石垣や庭園跡が残る。多羅尾家は家康の神君伊賀越えの際に、家康を護衛した功績により、その後、幕末まで代官に取り立てられた。	
③	みなくち 水口岡山城跡	国指定史跡	天正 13 年、羽柴秀吉の命で築城された山城で、この城の築城によって甲賀衆たちによる自治の時代は終焉を迎え、織豊期という新たな時代の幕開けとなった。	滋賀県 甲賀市
④	わだくぼう 和田公方屋敷跡	市指定史跡	甲賀の複雑な地形と勇猛な甲賀衆が守っていたこの地は、時の権力者の格好の潜伏地となった。 永禄 8 年、甲賀の和田惟政の手引きにより、奈良の一乗院を脱出した覚慶(室町幕府最後の将軍足利義昭)が一時滞在した場所である。	滋賀県 甲賀市

⑤	あぶらひ 油日神社の文化財群	国指定重文 建造物 (1 楼門・ 回廊・本殿)	油日神社は、甲賀衆たちが崇敬した甲賀の総社であり、聖徳太子を戦に勝つための軍神として崇めた。廻廊は、甲賀衆の合議の場で、本殿は多くの侍衆たちが力を合わせて寄進したものである。	滋賀県 甲賀市
		国指定史跡 (境内地：甲賀 郡中惣遺跡群)		
		県選択 無形民俗 (2 油日 の奴振 ^{やっこふり})	油日神社に5年に一度奉納される行事で、豪華な衣装を身につけた奴が登場する。この行事は甲賀衆であったかつての上野の惣領が奴を伴って油日神社に社参するというもの。	
		市指定 (3 油日神の 懸仏群 ^{かけぼとけ})	油日神社では聖徳太子を軍神と崇め、摩利支天などが信仰され、それらが懸仏として残っている。摩利支天は忍術秘伝書の中に、隠形の術として呪文とともに載せられ、忍者の守護神でもある。	
⑥	甲賀衆結束の鎮守の社	国登録文化財 建造物 (1 大鳥神社 楼門、拝殿、 中門、他)	大鳥神社は、この地の甲賀衆大原氏の氏神で、毎年8月3日に今も大原一族が氏神の前に集まり、大原同苗講が続けられている。	滋賀県 甲賀市
		県指定文化財 建造物 (2 矢川神社 楼門)	元亀元年矢川神社の門前で、甲賀衆の自治組織である甲賀郡中惣によって、争いごとの解決が行われた。矢川神社は甲賀衆の合議の場であり、集会場でもあった。	滋賀県 甲賀市
		国指定重文 建造物 (3 新宮神社 表門)	新宮神社の表門は文明17年に建てられた茅葺の八脚門である。新宮神社は、自治組織である甲賀郡中惣の活動の実態が知れる最初の記録にその名がみえる。	滋賀県 甲賀市
		未指定 (4 柏木神社)	もとは若宮神社と称し、水口柏木地域の伊勢神宮荘園の総鎮守で、地域の甲賀衆から信仰を集めた。	滋賀県 甲賀市
		県指定文化財 建造物 (5 檜尾神社 本殿)	甲賀衆の一人、池田氏の氏神として信仰された神社で、宝永3年に再建された極彩色の社殿には、天正8年池田信輝による本殿再建の際の棟札が残る。	滋賀県 甲賀市

⑦	らくや 櫟野寺	国指定重文 県指定、 市指定 (彫刻)	櫟野寺は天台宗布教の拠点寺院で 仏像の宝庫であり、本尊木造十一面観 音坐像は重文坐像としては日本一の 大きさを誇る。	滋賀県 甲賀市
⑧	山伏の修練場	国指定重文 (飯道神社本殿) 市指定史跡 (1 飯道神社、 飯道山遺跡) 未指定 (2 岩尾山 息障寺 3 庚申山 広徳寺)	近江屈指の修験霊場である飯道山 には今も累々と石垣で囲まれた寺院 跡が残り、極彩色に彩られた飯道神社 本殿が建つ。岩尾山や庚申山など巨岩 が屹立した甲賀三山は山伏の行場だ るとともに、甲賀忍者の修練場と伝 わる。	滋賀県 甲賀市
⑨	忍書 (ばんせんしゅうかい 萬川集海) (にんじゅつおうぎでん 忍術應儀傳) (渡辺家忍者史料)	市指定書跡 (1 萬川集海) 未指定 (2 忍術應 儀傳) 未指定 (3 渡辺家史料)	伊賀・甲賀の国境を拠点とした藤林 保武が著した忍術秘伝書が萬川集海 であり、伊賀、甲賀流忍術が集大成さ れている。 忍術應儀傳は忍家望月家に伝えら れ、聖徳太子と忍術の由来を説き明か している。 渡辺家には江戸時代、尾張藩に仕え た甲賀忍びの史料が残り、甲賀忍者が 得意とした火術や兵法など甲賀忍者 の働きを知ることができる。	滋賀県 甲賀市
⑩	甲賀忍術博物館 建物群	未指定 (1 旧岡田家 2 旧望月家 3 旧藤林家)	旧岡田家は甲賀町隠岐から移築し た民家で、忍者の道具が展示され、旧 望月家座敷は、甲南町柑子から移築 し、中二階や隠し階段が施された医薬 に携わった家である。旧藤林家は、忍 術秘伝書「萬川集海」の編者の一族の 家屋で、からくり屋敷として公開され ている。	滋賀県 甲賀市
⑪	甲賀のくすり 関連資料	未指定	かつては山伏たちが、諸国に配札の 際に、土産として持ち歩いたのが甲賀 売薬の起源と伝わる。甲賀、伊賀流忍 術の中に、火薬の製法や薬に関する記 述が多いのも、山伏の薬草の技術、知 識が活かされたものであり、今日の配 置売薬の礎となった。	滋賀県 甲賀市
⑫	まねびきのこ 甲賀の前挽鋸	国指定 重要有形 民俗文化財	甲賀、伊賀は奈良時代より東大寺の 杣地として良材を産出し、近代には大 型の製材鋸、前挽鋸の産地となった。 甲賀、伊賀はこうした山林従事者が多 くおり、山野を相手にした生業が忍術 にも影響を与え、戸を開けるための 忍具にも様々な形状のノコギリが登 場する。	滋賀県 甲賀市

⑬	伊賀の中世城館群と 天正伊賀の乱激戦の城跡	県指定史跡 (1 福地城跡) 市指定史跡 (2 柏野城跡・ 3 竹島城跡・ 4 壬生野城跡) 未指定 (5 雨乞山 砦跡 6 百地砦跡)	戦国時代の地侍である、伊賀惣国一揆衆たちの城館跡である。中でも雨乞山砦跡などは、戦国の覇者織田信長が2度に渡り伊賀を攻めた天正伊賀の乱の際、伊賀者が徹底抗戦した城である。	三重県 伊賀市
⑭	上野城跡 (平楽寺跡)	国史跡	上野城跡は、かつては平楽寺という寺院であり、織田信長の侵攻時には伊賀衆の軍議が行われた場所で、今も多くの五輪塔や石仏などを見ることができる。	三重県 伊賀市
⑮	れいざん 霊山山頂遺跡	県指定史跡	山岳寺院跡。伊賀忍術は修験道に端を発し、孫子の兵法に武術の技術の理論を加え完成した山伏兵法が基とされる。斜面地には郭群が広がり、多くの人がここで修行していた。	三重県 伊賀市
⑯	てぢからじんじゃ 手力神社と 手力の花火	未指定	伊賀三大上忍の一人、藤林長門守一族の氏神。毎年10月17日には花火祭りが開催されるが、これは藤林一族が火術・火筒・狼煙といった火の忍術を得意としていたことに由来する。	三重県 伊賀市
⑰	徳永寺	未指定	寺内において葵紋の瓦などの使用が江戸期から認められており、本能寺の変の後、堺にいた徳川家康が本国三河に帰還する「神君伊賀越え」の際に家康が立ち寄った証である。	三重県 伊賀市
⑱	修験道の寺 松本院	未指定	忍者のイメージのひとつとなった修験道の寺であり、大峰山入峰修行など修験道の痕跡を今も色濃く残す。1616年に伊賀で唯一の祈願寺として建立された。	三重県 伊賀市

⑬	みぶの 壬生野地域の中世城館群 と春日神社	県指定文化財 (1 春日神社拝殿) (2 雨乞願解大馬附相撲板番付) 市指定文化財 (3 古文書) (4 獅子神楽) (5 伊賀国無足人帳) 未指定 (6 長屋座)	今なお、土塁や堀が残る見事な中世城館が多く分布し、戦国時代の景観を色濃く残す。 春日神社はそれら伊賀者を輩出した伊賀衆の氏神である。彼らは宮座を結成し、様々な祭礼行事を通じて結束を強めた。今も長屋座という座が残り、春祭りの獅子神楽が盛大に開催される。 また藤堂藩制では伊賀衆は無足人と呼ばれた。「伊賀国無足人帳」は江戸時代の無足人1,800人余の名を記した文書であり、普通の生活をしながら、有事の際に武器を持った忍の痕跡がみられる。	三重県 伊賀市
⑳	あえくに 敢国神社	未指定	伊賀流忍術を開花させた服部氏一族が平安時代に「黒党(くろんど)祭」という私祭を主催していたといわれる伊賀国の一之宮である。	三重県 伊賀市
㉑	伊賀流忍者博物館 (伊賀流忍者屋敷)	未指定	1961年に高山という場所にあった農家住宅を移築、改築したもの。	三重県 伊賀市
㉒	しのび 忍 ちょう 町	国登録文化財 (赤井家住宅)	江戸時代藤堂藩の伊賀者の屋敷があり、藩内警備や情報収集に当たったとされ、赤井家住宅が当時の武家屋敷として残る。	三重県 伊賀市
㉓	藤林長門守墓所	市指定文化財	伊賀流忍者の大家であった藤林長門守一族の墓所で25基もの墓碑が並ぶ。	三重県 伊賀市

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文、県有形、市無形、等)。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

① 甲賀の中世城館群



甲賀郡中惣遺跡群 (新宮支城)

② 神君伊賀越え関連遺跡



1.小川城跡



大原城跡



2.多羅尾代官陣屋跡



甲賀郡中惣遺跡群 (寺前城・村雨城)

③ 水口岡山城跡



④ 和田公方屋敷跡



3.油日神社懸仏群

⑤ 油日神社の文化財群



1.油日神社楼門・廻廊

⑥ 甲賀衆結束の鎮守の社



1.大鳥神社楼門



2.油日の奴振



2.矢川神社楼門



3.新宮神社表門



4.柏木神社



5.檜尾神社本殿

⑦ 櫛野寺



本尊木造十一面観音坐像

⑧ 山伏の修練場



飯道神社本殿



史跡飯道神社、飯道山遺跡



岩尾山息障寺



飯道山での護摩修行



庚申山広徳寺

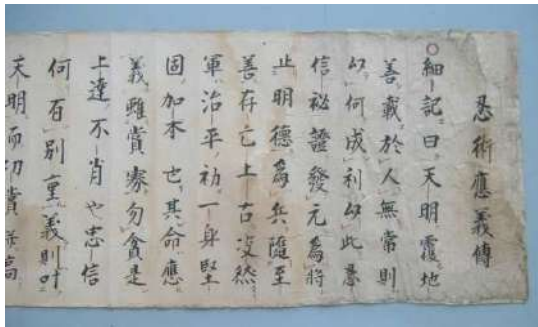


山伏の行場 (飯道山)

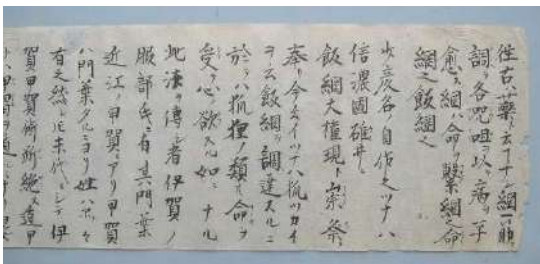
⑨ 忍書



萬川集海



忍術應義傳



渡辺家忍者史料

⑩ 甲賀忍術博物館建物群



甲賀忍術博物館



旧岡田家



旧藤林家

⑪ 甲賀のくすり関連資料



薬研



行李

⑫ 甲賀の前挽鋸



前挽鋸



近江甲賀の前挽鋸製造用具及び製品

⑬ 伊賀の中世城館群と

天正伊賀の乱激戦の城跡



柏野城跡



竹島城跡



壬生野城跡

⑭ 上野城跡 (平楽寺跡)



⑮ 霊山山頂遺跡



手力神社

⑯ 手力神社と手力の花火



⑰ 徳永寺



⑱ 修験の寺 松本院



⑳ 敢国神社



㉑ 壬生野地域の中世城館群と春日神社



春日神社

㉒ 伊賀流忍者博物館



壬生野の中世城館群

㉓ 忍町



㊸ 藤林長門守墓所



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
042	忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー

(1) 将来像 (ビジョン)

伊賀、甲賀二つの市は、「伊賀流」と「甲賀流」という忍術の二大流派の発祥の地である。県境の丘陵を隔てて南北に隣り合い、今も交流が盛んである。伊賀・甲賀流の忍術は山々が複雑に入り組んだ地形や豊かな宗教文化、多彩な生活の中から育まれた。忍者は複雑な地形を利用して多くの城館を築き、互いに連携し自らの地を治め、地域の平和を守り抜いた集団である。忍者は今やテレビやアニメを通じて海外にまで広く知れ渡り、世界に通用するポテンシャルの高い地域ブランドである。

そのような中、認定地域の行政計画では、「伊賀市第2次総合計画、第3次基本計画(2021年6月策定)」に、忍者を「入り口」「切り口」としたプロモーションによる観光誘客の推進を位置づけている。加えて「伊賀市文化財保存活用地域計画(策定中)」では、「忍びの国 伊賀」を伊賀市の歴史文化の特徴の一つと位置づけ、「伊賀市歴史的風致維持向上計画(2022年3月策定)」も日本遺産の調査研究、保存活用について明記されている。また「第2次甲賀市総合計画第2期基本計画(2021年4月策定)」や「第2次甲賀市観光振興計画(2017年8月策定)」で甲賀流忍者発祥の地であることを掲げ、忍者を核とした周遊型観光の促進することとし、加えて、「甲賀市文化財保存活用地域計画(2020年3月策定)」日本遺産の取り組み内容を記載している。

伊賀市と甲賀市は早くから忍者を観光資源として位置付け、忍者によるまちづくりを進めてきた。2017年の日本遺産認定は、忍者の歴史・文化、忍者にまつわる史跡や文化財を掘り起こし、それらを磨き上げ、受入態勢整備に効果をもたらした。さらに日本遺産の取組によって地域住民のコミュニティが活性化し、シビックプライドの醸成に寄与している。このような状況を踏まえ、日本遺産による中長期的な将来像を次のとおりとする。

1 日本遺産を通じて地域に誇りと愛着を持つ関係者が増大する

協議会の関係者、地域住民、民間団体などの一人ひとりが主役であるとの認識のもと、地域全体であらゆる主体が日本遺産ストーリーの価値を知り、その魅力を自ら語り、自ら考え取り組むことで、文化財保護の意識や地域に誇りと愛着を持つ人が増え、観光地のホスピタリティが高まり、日本遺産の事業に携わる者のすそ野が広がる。

2 多角的な情報発信により、「そこにしかないもの」を求めて来訪者が増える

日本遺産のストーリーである「忍びの里伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー」を、様々な媒体を用いて戦略的に情報発信をすることで、伊賀・甲賀の唯一性が国際的に認知され、人々の興味や関心が深まり、忍びの里への来訪者が増える。

3 忍者を活用した取り組みにより持続可能な観光地が形成され、地域が活性化する
 地域の宝物である日本遺産の忍者を最大限に活用した官民共創による取り組みにより、付加価値を生み続ける仕組みが構築される。それらを消費する来訪者の喜ぶ姿を見て、受け入れる側にも満足度が高まり、観光産業に関わる事業者の経済活動によって好循環を創出し、持続可能な観光地が形成され、地域が活性化する。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：各市の主要忍者関連施設の来訪者数（人）

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	76,249	77,084	集計中	144,940	152,188	159,797
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>各市の主要忍者関連施設の来訪者数の合計を指標として設定。2024年度にコロナ禍以前（2019年度）の来訪者数に戻すことを基準とし、2025年に5%増の来訪者数を目指す。（第二次甲賀市観光振興計画の目標伸び率を参照） 主要忍者関連施設：伊賀流忍者博物館（伊賀市）、甲賀流リアル忍者館（甲賀市）</p>					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②-A：小学生の日本遺産のストーリー認知度（%）

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	—	—	18	23	28	33
目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>各市の小学校において2月22日の「忍者の日」に行われる特別給食による食育・普及啓発事業で忍者について理解を深めた小学生の割合を指標として設定。2025年に3人に1人の認知度を目指す。小学5・6年生へのアンケートにより認知度を把握。</p>					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること

指標③-A：各市の観光インフォメーションセンターでの売り上げ（円）

年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025

数値	8,797,442	9,866,086	集計中	14,049,848	14,752,340	15,489,957
目標値の設定の考え方 及び把握方法	各市の観光インフォメーションセンターでの売上金を指標として設定。2024年度にコロナ禍以前（2019年度）の売上数に戻すことを基準とし、2025年に5%増の売上を目指す。 観光インフォメーションセンター：伊賀上野地場産買物処（伊賀市）、甲賀流リアル忍者館（甲賀市）					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財が棄損滅失していない（活用可能な状態にある）割合（%）						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	100	100	100	100	100	100
目標値の設定の考え方 及び把握方法	構成文化財が棄損滅失していない割合を指標として設定。割合の維持をし、適正管理に努める。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：地域の観光入込客数（人）						
年度	実績			目標		
	2020	2021	2022	2023	2024	2025
数値	3,701,637	4,232,191	集計中	5,838,089	6,129,993	6,436,493
目標値の設定の考え方 及び把握方法	各市の観光客入込み数（4～3月）の合計を指標として設定。2024年度にコロナ禍以前（2019年度）の観光客数に戻すことを基準とし、第二次甲賀市観光振興計画の目標伸び率を参考に2025年に5%増の観光入込客数を目指す。					

（3）地域活性化のための取組の概要						
認定地域の将来像を実現するため、計画期間（2023～2025年度）の重点テーマと取組概要は次のとおりとする。						
<p>➤重点テーマ</p> <p>2025年の大阪・関西万博を見据えた、日本遺産ストーリーや構成文化財を活かした広域観光周遊ルートの造成と地域活性化の推進</p> <p>2023年2月22日（忍者の日）、公益財団法人大阪観光局と忍びの里伊賀甲賀忍者協議会の構成団体の6者で連携協定を締結した。この連携協定に基づき日本遺産の事業による大</p>						

阪を起点とする広域周遊観光ルートの構築、訪日外国人旅行者などの誘客促進を図る。加えて、地域住民への普及啓発事業を継続し、シビックプライドの向上を図るとともに、明確にターゲットを設定し効果的に情報発信を行い、忍びの里のブランド力を強化する。

➤取組概要

【広域観光周遊ルート造成事業】

地域のプレイヤーや観光産業の担い手等で構成する（仮称）忍びの里プロジェクトチームを設置し、日本遺産ストーリーや忍者に関連する文化財・史跡等の地域資源の磨き上げにより、地域経済の活性化に資する体験型コンテンツを開発する。また、テーマ性・ストーリー性を持った一連のスポットを交通アクセスも含めてネットワーク化し、訪日外国人旅行者などのニーズに見合った、忍びの里への来訪を強く動機づける広域観光周遊ルートの形成を促進する。

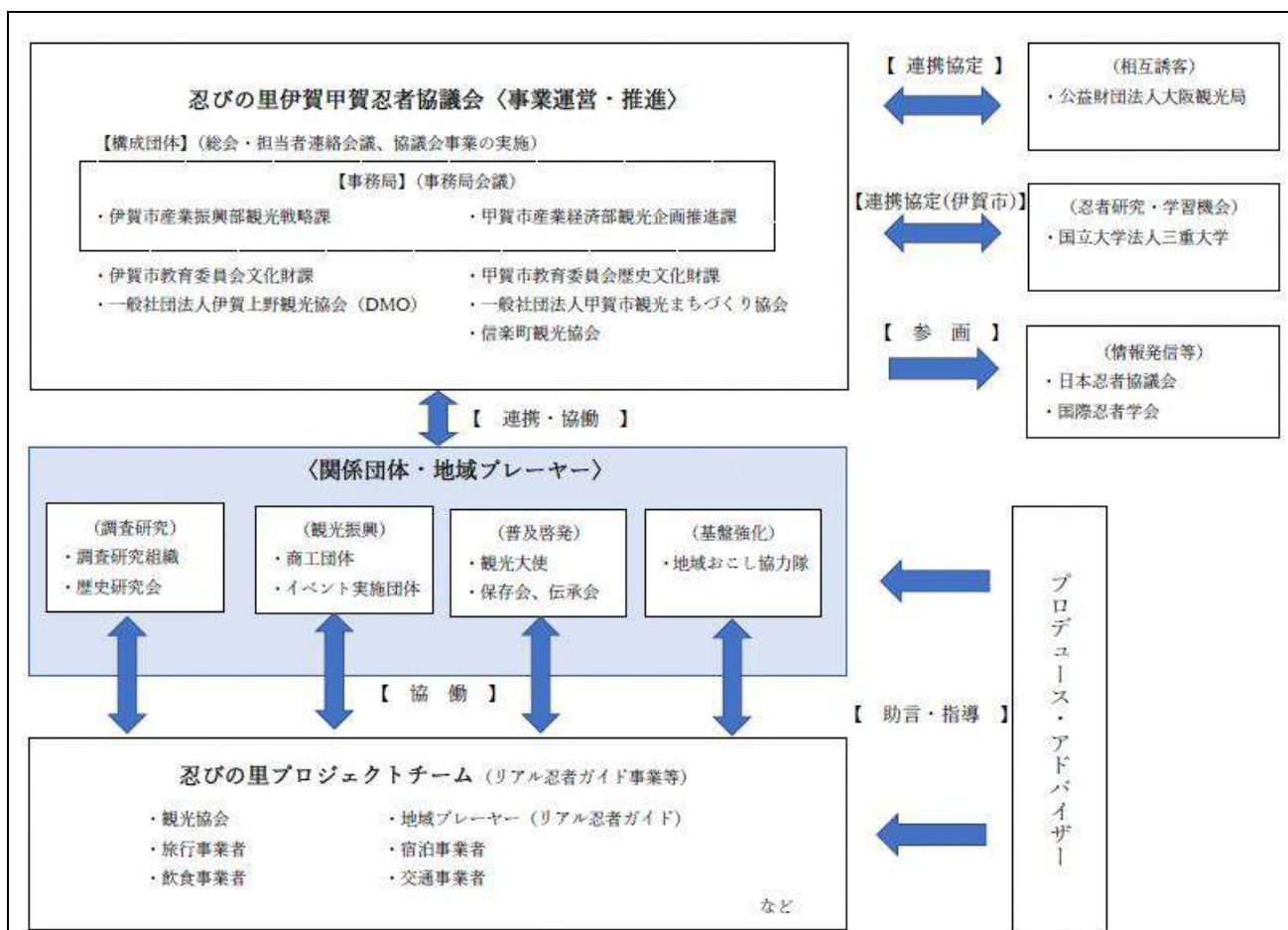
【観光拠点施設整備事業】

両地域の観光のランドマークとなる忍者を核とした拠点施設として、甲賀流リアル忍者館の更なる魅力向上及び誘客促進を図るために周辺の整備等を行う二次整備、伊賀市における中心市街地のにぎわい創出に向け、PFI方式による伊賀流忍者体験施設整備を推進することにより、観光客の受け入れ施設の充実を図る。

【地域住民への普及啓発事業】

- ・両地域の住民向けに、地域に残る忍者の歴史的遺産や、暮らしの中に溶け込んでいる文化などを日本遺産のストーリーや各構成文化財とともに紹介し、自分の住むまちへの愛着や誇りを育む。
- ・学校教育と連携し、「忍者の日」（2月22日）等を活用しながら歴史・文化を学び、忍者に深い関心や愛着をもち、主体的に忍者のまちづくりに取り組む次世代の育成を行う。
- ・行政の主催、又は国立大学法人三重大学や地元の調査研究会などと連携し、日本遺産の構成文化財を紹介する市民向け講座などを実施する。

（４）実施体制



[人材育成・確保の方針]

忍びの里のストーリーを地域内外の人にしっかりと伝えていくために、地域のプレイヤーの存在が必要である。これまでに、協議会の自主事業として、日本遺産の魅力を語る担い手を育成するため、リアル忍者ガイド養成事業を重点的に行っている。ガイドマニュアル本の作成やガイド養成講座を継続的に実施し、ブラッシュアップを行っており、日本遺産観光ガイドになりうる人材を育成してきた。また、両市の学校教育と連携し、小学生への出前授業や、忍者にまつわる学校給食の提供など、次世代を担う子どもが日本遺産の価値を知り、学ぶ機会を提供している。今後もこうした取り組みによって、地域に根ざした人材の育成、確保につなげていく。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

忍びの里伊賀甲賀忍者協議会は、両市の行政と観光協会で組織されており、協議会の運営は、主として両市の行政からの負担金を財源に、人材育成、情報発信等の事業を実施している。また、各構成団体は、地域住民や民間事業者等の多様な主体と情報を共有し、連携しながら事業を実施している。日本遺産事業を通じて、忍びの里伊賀甲賀は忍者の源流、聖地であることをしっかりとPRし、両市の重要な観光施策として位置付け、忍びの里のブランド力の向上を図ることにより、今後も継続的に両市の行政が主として財源を支援し、取組を推進していく。

また、両市の観光地域づくりの舵取り役を担う一般社団法人伊賀上野観光協会(DMO)と一般社団法人甲賀市観光まちづくり協会、信楽町観光協会は、官民連携した推進体制のも

と、交通、宿泊産業、飲食、土産物などの幅広い分野での産業振興の促進、雇用機会の創出等の取組を行っている。両市の日本遺産である伊賀流、甲賀流の忍者を体感できる事業を、観光協会や民間団体との連携をより一層強化し、官民共創により推進していく。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

伊賀、甲賀の構成文化財は、それ単独で存在するものではなく、地域の歴史的風土の中で形づくられ、継承されてきたものである。日本遺産ストーリーに基づく両地域の構成文化財の魅力に一層磨きをかけることで、文化的創造や観光地域づくりのための地域資源として、歴史的風土を活かしつつ総合的に文化財の保存と活用に取り組んでいく。具体的には、日本遺産の歴史や文化は世代間交流を促す大切な資産となることから、次代を担う子どもたちへ継承するため、学校教育との連携を深め、郷土の歴史文化を学ぶ機会づくりを行っていく。さらに、伊賀甲賀地域の忍者の子孫にあたる旧家などに受け継がれている忍者の古文書調査を継続して行くことで、地域住民の忍者への興味・関心が深まり、シビックプライドの醸成につながる好循環の創出に向け取り組んでいく。また、地域の里山に佇む城館群は地元の保存団体や自治組織などによって環境整備が行われている。そうした地域住民の自主的な地域コミュニティ活動を維持継承していくために、日本遺産の価値や活動の意義をしっかりと伝えていく。

加えて、伊賀・甲賀流忍者にしかない質の高い体験コンテンツの造成、ターゲットを明確に設定した情報発信などによって、忍者のファンが増え、「思い入れ」や「愛着」を感じる、かけがえのないブランドに育てていくための基盤づくりを行っていく。それに向けて移住者や関係人口の増加につながるように、地域おこし協力隊、観光大使、ふるさと納税による寄付者、忍者に関する研究のため地域で活動している学生、伊賀・甲賀の観光リーダーなどが、日本遺産を通じて地域づくり活動へ参画を促進する取組を積極的に推進し、さらにその取組を地域の住民と協働で行うことで、歴史文化を起点とした観光による地域経済効果が両市の歴史文化に還元される好循環を生み出し、地域における持続的な文化財の保存活用と、その先にある地域の活性化につなげていく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	計画に基づく事業の企画・実施を行う組織体制の強化		
概要	協議会の組織強化に向けて、事業ごとに民間企業や地域のキーマンとなる人材と連携することで、円滑な協議会の推進体制の強化。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会における推進体制の強化	行政として両市の観光部局が事務局を担い、文化財部局並びに観光協会によって日本遺産の主たる活動を行っている。さらなる活動発展のために民間団体を交えた部会の編成などについて協議・検討を行い、各構成団体の役割分担を明確化し、事業に取り組む。	協議会、民間事業者
②	関係する民間事業者や団体の増加、推進する基盤の構築	協議会の活動に参画し、協働する法人パートナーとの連携構築のため、旅行会社や民間事業者を巻き込んだプロジェクトチームを立ち上げ、日本遺産事業を推進していく。	協議会、観光協会 (DMO)、民間事業者、
③	日本全国の忍者ゆかりの地や団体との連携	日本忍者協議会及び国際忍者学会へ参画し、国、大学、全国の忍者に関連する自治体・観光協会・民間団体等が連携し、忍者に関する学術研究の推進、忍者を活用した観光振興、文化振興、地域経済の活性化につなげる取組を推進する。	伊賀市、甲賀市、観光協会 (DMO)
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	日本遺産関連事業への協力事業者数 (団体)		18
2021			19
2022			20
2023			21
2024			22
2025			23
事業費	2023年度：3,620千円 2024年度：3,620千円 2025年度：3,620千円		
継続に向けた事業設計	両市の総合計画や観光振興計画において忍者を核とした観光まちづくりを重要施策に位置付けられていることから、行政での財源確保を継続されるよう取り組む。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	日本遺産事業の計画的な実施のための仕組みの構築		
概要	協議会構成団体や協力事業者の取り組みを反映するため、各団体との連絡を密にとる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	定期的な担当者会議、連絡会の開催	定期的な会議を開催することにより、協議会全体の連携を密にし、各地域での取り組みが持続的な事業へとなるように協力体制をつくっていく。	協議会
②	地域の来訪者マーケティング調査や県内観光マーケティングプラットフォームとの連携による観光客動向の把握・調査	伊賀市の観光地域づくり法人 (DMO) を軸に来訪者アンケートや WEB リサーチによる情報収集、収集したデータの精査・分析を行い、県内観光マーケティングプラットフォームと連携することで、より有効的な観光客の動向の把握に努める。	伊賀上野観光協会 (DMO)
③	行政計画に基づく各種事業の推進及び進捗管理	両市の行政計画 (甲賀市第 2 次観光振興計画第 2 期基本計画、第 2 次伊賀市総合計画・第 3 次基本計画、伊賀市観光振興ビジョン、甲賀市文化財保存活用地域計画、伊賀市文化財保存活用地域計画 (2023 年度策定予定)、に位置付けている日本遺産である忍者にまつわる構成文化財の保存・継承、忍者を活用した観光誘客と地域の活性化に向けて各種事業を推進していく。	伊賀市 甲賀市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	協議会での会議の開催回数 (回)		1 1
2021			5
2022			5
2023			1 1
2024			1 1
2025			1 1
事業費	2023 年度:10,670 千円 2024 年度:10,670 千円 2025 年度:10,670 千円		
継続に向けた事業設計	より効果的な協議会の開催を行うため、県や構成団体が実施する観光に対する動向調査やマーケティング調査を活用する。 また、日本遺産忍びの里について、両市の総合計画や観光振興計画、文化財保存活用計画の中に位置づけていく。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	日本遺産ガイド育成事業		
概要	これまでに、ガイドマニュアル本の作成やガイド養成講座を実施しており、日本遺産観光ガイドになりうる人材を育成してきた。今後、登録ガイド制度の構築や商品化を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ガイドマニュアル本の再編	認定当初作成したガイドマニュアル本を見直し、各構成文化財と日本遺産のストーリーをより分かりやすく解説する教本を作成する。	協議会
②	忍びの里登録ガイド制度の整備	認定当初から実施してきたガイド養成講座の受講者が実際に活躍できるよう、登録ガイド制度を整備し運営する。	プロジェクトチーム
③	忍びの里ガイド養成講座の実施	登録ガイドとなるためのステップとして、ガイド養成講座を開催し、スキルアップを目指す。	協議会
④	地域プロデューサーとの連携	地域おこし協力隊などの人材と連携し、忍者を活用した取組を推進する。	伊賀市、甲賀市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020			2
2021	忍びの里ガイド養成講座実施回数（回）		2
2022			2
2023			1
2024	忍びの里登録ガイド数（人）		5
2025			10
事業費	2023年度：19,080千円 2024年度：19,080千円 2025年度：19,080千円		
継続に向けた事業設計	忍びの里登録ガイド制度の運営が軌道に乗るまで、忍びの里伊賀甲賀忍者協議会事務局において、スキルアップを図りながらガイド料の適正化に取り組み、自走可能なガイド提供の体制づくりを目指す。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	忍者を核とした観光拠点施設整備事業		
概要	日本遺産のストーリーを体験し、構成文化財を周遊するための拠点となる施設の整備や案内機能の充実・強化		
	取組名	取組内容	実施主体
①	忍者体験施設整備事業の推進	中心市街地エリアにある上野公園から城下町エリアを結ぶ導線を「にぎわい忍者回廊」と位置付け、PFI手法を用いた官民が一体となった取り組みの一環として、観光客を迎える玄関口となる伊賀鉄道上野市駅の近くに、観光地のランドマークとしての機能を備えた忍者体験施設を整備する。	伊賀市 民間事業者
②	観光インフォメーションセンター甲賀流リアル忍者館の2次整備	2020年11月にオープンした甲賀流リアル忍者館の2次整備として周辺整備を予定しており、リアル忍者の歴史や文化、生活をより分かりやすく伝え、来訪者がリアル忍者に関心を抱き、構成文化財や観光施設へ訪れたいくなるような観光拠点づくりを進める。	甲賀市
③	観光インフォメーションセンター（観光案内所）等の案内機能の充実・強化	来訪者等（外国人観光客含む）の多様なニーズに応えるため、観光情報等の案内や相談、資料提供等のサービスの提供によって来訪者等の満足度を高める。案内業務の従事者の人材育成や、多言語による観光案内ツールの維持する、受入環境を整える。	伊賀市、甲賀市、観光協会、DMO
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	各市の主要忍者関連施設の来訪者数（人）		76,249
2021			77,084
2022			集計中
2023			84,985
2024			89,234
2025			93,696
事業費	2023年度：229,195千円 2024年度：各市の計画による 2025年度：各市の計画による		
継続に向けた事業設計	伊賀市における中心市街地のにぎわい創出に向け、PFI方式による伊賀流忍者体験施設整備を推進することにより、観光客の受け入れ施設の充実を図る。令和4年9月30日に伊賀市と契約を締結した特定目的会社（SPC）に事業権が移行し、民間資金を投資しながら事業者によ		

り順次設計、建設、運営、維持管理などの業務が実施される。

甲賀市忍者を核とした観光拠点整備計画に基づき、2020年にオープンした観光インフォメーションセンター甲賀流リアル忍者館の二次整備を進める。

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産ストーリーを体感できる体験型コンテンツや旅行商品の開発		
概要	忍者に関連する文化財や史跡等の地域資源の磨き上げにより、収益性のある体験型コンテンツの開発や、ターゲットに訴求する旅行商品を企画造成するとともに、販路開拓を行う仕組みを構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	忍びの里プロジェクトチームによる事業推進	協議会、民間事業者・団体、地域プロデューサーなどで構成する忍びの里プロジェクトチームにより、地域の観光協会やDMOと連携しながら、観光事業化を推進する。	協議会 観光協会 プロジェクトチーム
②	忍びの里登録ガイドの運営体制整備	忍びの里登録ガイドの運営マニュアルを作成し、ツアーや個人客の受入体制整備を図る。	協議会 観光協会
③	体験型コンテンツ及び旅行商品の造成、販路開拓	忍びの里登録ガイドが現地案内をする高付加価値な体験型コンテンツの開発、ターゲットに訴求するテーマ性のあるモデルルートを創出するとともに、コア層会員を持った旅行会社への営業活動やOTA等を活用した販路の開拓を推進する。	協議会 民間事業者 DMO プロジェクトチーム
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	忍びの里登録ガイドを取り入れた体験コンテンツ 又は旅行商品数		0
2021			0
2022			0
2023			1
2024			3
2025			5
事業費	2023年度：4,968千円 2024年度：5,839千円 2025年度：5,355千円		
継続に向けた事業設計	両市からの協議会負担金に加え、国の補助金を活用する。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	日本遺産「忍びの里」普及啓発事業		
概要	協議会で取り組んでいる普及啓発活動を継続し、両市の連携・普及に努める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	各市広報誌による地域内への普及啓発	日本遺産のストーリーや構成文化財を各市の広報誌で定期掲載し、継続的に市民への普及啓発を行うことで認知度の向上およびシビックプライドの醸成を図る。	伊賀市 甲賀市
②	出前講座による地域内への普及啓発	日本遺産のストーリーや構成文化財等について、地域の理解度を深めるため、出前講座を行う。	伊賀市 甲賀市
③	忍者に関するご当地検定	地域住民の忍者に関する知識習得、理解度を深めるため、伊賀学検定および甲賀流忍者検定を実施する。	上野商工会議所 甲賀忍術研究会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	各市の忍者に関する検定受講者数（人）		125
2021			362
2022			495
2023			500
2024			500
2025			500
事業費	2023年度：1,350千円 2024年度：1,350千円 2025年度：1,350千円		
継続に向けた事業設計	実施主体の事業予算において行う事業に対し、構成団体が支援や協力を行う。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	日本遺産「忍びの里」情報発信事業		
概要	日本遺産「忍びの里」の情報を発信するとともに、各市事業の情報発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	忍びの里公式HP及び日本遺産ポータルサイトの充実	忍びの里公式HP及び日本遺産ポータルサイトの掲載内容を充実させ、忍びの里のストーリーの周知をはかる。	協議会
②	SNSでの情報発信	忍びの里公式SNSの情報発信をさらに充実させ、忍びの里の事業およびストーリーの周知をはかる。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2020	忍びの里公式HP及び日本遺産ポータルサイト閲覧者数		9,088
2021			18,279
2022			集計中
2023			22,000
2024			23,000
2025			24,000
事業費	2023年度：500千円 2024年度：500千円 2025年度：500千円		
継続に向けた事業設計	観光客誘致に寄与するような魅力的な日本遺産構成文化財の発信事業を行う。関係団体のホームページに相互リンクを掲載し、リアル忍者の情報発信力の強化を図る。		